

## 秋の沢集中 巻機山

登川 金山沢 9月14～15日

メンバー:釣(L)、天野、平本、新井(記録)

9月13日

海老名駅を21:00出発。深夜に入渓点近くの沢口バス停でテント泊。屋根付きでテントが3張りくらい張れそうなスペース。目の前が民家なので少し話して寝た。

9月14日 くもり後晴れ

入渓点はもう少し先のはずと291号線を数百メートル南下した空き地の作業小屋の裏に駐車したが、結局入渓路は沢口バス停前の砂利道だった。実は次の日、下山が遅いのを心配してリーダー会の3人が沢口バス停まで来てくれたのだが、この車を見付けることが出来ず、パーティーに連絡もつかないのでとても心配していたという。18時過ぎに下山してバス停に戻ったときにはもう誰もいなかった。そんな心配をかけたとは知る由もなかった。帰りの車中釣さんが「今回は最初から勘が悪かった」と言っていたのだが…。

8:00。金山沢入渓。魚の保護のため全面禁漁という看板が立っていた。少し沢の中を歩くが左に仕事道を発見してしばらくはそれを進む。このときまだ新井は平本さんと、「AC/DCはカッコいいですね」「そうだよね」などと暢気に音楽の話などしていた。その後そんな余裕などなくなるとも知らずに。

8:40。堰堤を越したところからまた沢に戻る。巨岩帯が続いた後、ナメの溪相となり大小の滝が出てくる。ナメの小滝で新井がツルツルと滑ると「そんな危ない動きはダメだっ!」と平本さんが一喝。反省して慎重に進むがますますツルツルなスラブが出てきて、ヤバ

所に来てしまった、と思い始める。他の人が水流を避けて登れるホールドで自分は登れず、水流の中にホールドを探して何とか登るとい勝手にシャワークライム状態。

11:45。黒岩沢出合付近で早くも新井の脚が攣って、ゴメンナサイ休憩をもらう。「水をたくさん飲んだ方がい」と天野さんからアドバイスをもらう。その後、30m滝を右から、50m滝を左から巻いた。

13:00。第一スラブ。新井は下から見ただけでビビってしまう。背の高い釣さん、平本さんは一步の幅が大きくなかなか同じルートで付いて行けない。スリングでサポートしてもらいながら時間を掛けて何とか第2スラブの入口の7m滝上に出る。

14:30。金山沢のハイライト、第2スラブを登り始める。傾斜は平均45度くらいのスラブが200m以上はありそう。通常は上の方で3ピッチくらいロープを使う様だが新井のために早々にロープを出してくれる。1P、2Pは天野さんがリード。「ここは断然ゴム底のシューズがいいよ」と巧みに登って行く。水流の左に行く。3P目はやはりゴム底の平本さん。「一番オイシイとこ行かしてもらってちゃっていいんですか?」と嬉しそうに水流左を登る。2、3ヶ所ナッツでプロテクションを得る。他の記録を見ると、途中で流れを右にトラバースするルートもあるようだが結局最後の5P目まで左を行った。おそらく技術の乏しいメンバーがいるので草付きに近いルートを取ってくれたのだと思う。だが逆に最後の方は難しいルートになってしまったようだ。慣れた人達だけならもっと違ったルートがあったのだろうと思う。4P目。天野さん。ここはナッツを噛みしながらジグザグに進まなければならず、かなりリードも難しそう。5P目は釣さんが急な草付帯を木につかまりながら突破、落ち口に出た。新井は2P目からゴボウで登った。もう18:00で暗くなりかけていたが何とか明るいうちに突破出来て良かった。

た。

18:00。落ち口すぐ上のごく狭い河原でピバーク。食当の釣さんがカレーライスを作ってくれたが、ジャガイモもタマネギもみんなそのままゴロゴロと持って来ていたのは驚いた。おかげでとても美味しいカレーが食べられた。新井はそれまでの恐怖と疲労でとても食事がのどを通らないのではと思ったが3人前くらい食べた。

9月15日。晴れ。

朝起きて下の方を見るとカモシカが第2スラブをタタターッと駆け降りて行くではないか。思わず心の中で「カモシカのバカヤロー！ スゲー怖い思いして登ったのにー」と叫んでいた。

7:30。出発。9:00頃。ルンゼ状で両壁の幅が1mほどの5m×2段滝。念のためザイルを出す。手足を両壁に突っ張って何とか登れた。無線交信の時間なので交信を試みるも通じず。少し進むと二俣に出た。右俣を行けば割引岳ピーク付近に出るが、左俣の方が稜線に近いので、そこから登山道を行った方が楽だろうとの判断で左俣に行く。

10:00。少々のヤブこぎの後、稜線に出る。ヤッターっ、という感じ。しかし、割引岳ピークへの道は見えない。そのうち出てくるだろうとヤブを漕いで進むがササ、ヒバ、シャクナゲ混合の強烈なヤブで30～40分間挑んだが、枝の下にも潜れず、上にも出れずでほとんど進まず二進も三進もブルドックで疲労するばかり。この分だと集合に間に合わない判断。11:00に無線でこれから下山することを金井さんに伝える。この状況は予想出来なかったが右俣を詰めていたら集合に間に合っていたらどうか。

大休止後、下山開始。コースタイムで3時間半くらいとのこと。低めのヤブを15分くらい漕ぐと道に出た。ホッと胸を撫で下ろして、あー良かったと思っているとまた道がなくな

る。えええーっ！と思ってヤブこぎで進むと、またちょっとした踏み跡が出てきてまたすぐなくなる。そのうち完全に踏み跡はなくなってシャクナゲとの終わりなき戦いが始まったのだった。枝が下向きに生えているので、知らず知らずのうちにだんだんと尾根から下方方向に振られていってしまい、GPSで確認して尾根方向に戻る、を何度も繰り返す。枝を手で広げて潜ったり、押さえて跨いだりでクタクタになりながら古峰山の登山道に出たのは16:00頃だったか。ああ～っっ、道があるって素晴らしいっ！！もうとっくに手も脚も気力も限界を超えていて発狂しそうだった。というか半ば発狂していた。その後の下山路も、ちょっとでも遅れるともう絶対に追いつけないと思い釣リーダーの後を2番手で必死に付いて行った。何か叫んでいないと倒れてしまいそうで「オリヤーっ！」とか「ウウウォーっ！」などずっと叫びながら走るように歩いた。途中で沢口バス停に田中さんらしき車が停まっているが見えて平本さんが無線交信したが通じず、日没も迫っていたので連絡もそれきりで心配を掛けてしまった。沢口バス停に着いたのは18時を過ぎ暗くなっていた。もう田中さんの車は無かった。数年前の『山と高原の地図』にはこの下山ルートは「登山道(難路)」となっているのだが、後で最新版を見るともうこのルートは出ていないではないか。情報と連絡の重要性を痛感した山行だった。

とにかく自分は付いて行くのにイッパイイッパイで記録がおろそかになってしまってほとんど私見の様な文章になってしまった。釣リーダーの勘が鈍ってしまったのも、サクサクとついて来れないメンバーがいたのでリズムが狂ってしまったのだと思う。自分の技量も考えずこの沢を選んで足手まといとなった人間を何も言わず無事に連れ帰ってくれた同行の先輩方には本当に感謝します。

リーダー会を始め会の皆様にも心配を掛けてすみませんでした。本当に貴重な経験をさせてもらいました。ありがとうございました。

